

(八代清流高等) 学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標
一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする。
(1) 他者と共によりよく生きるために、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下、「自律」した行動のとれる生徒を育成する。
(2) 持続可能な社会の創り手となるために、現代的な諸課題に「進取」の気概をもって挑戦し、粘り強く課題解決する生徒を育成する。
(3) 多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓くために、文武両道に努めて心身を「錬磨」し、活力ある逞しい生徒を育成する。

2 本年度の重点目標
(1) 自律(徳) 「自律(自立)した行動がとれる生徒の育成」
(2) 進取(知) 「主体的・対話的で深い学びのある授業の提供」
(3) 錬磨(体) 「特別活動の充実と部活動の奨励」

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	地域の進学希望者の夢を叶える	自律した行動がとれる生徒の育成	①自己管理能力の育成 ②安全教育・防災教育の充実 ③保護者や地域との連携	①Sノートや健康管理シート等を有効に活用する ②施設の整備・点検や防災避難訓練を実施する ③情報の発信により生徒理解を深める	A	①生徒個人がスケジュール管理や連絡事項を整理し、健康状態を日々把握することで、自律した行動力の育成に取り組んだ ②年2回実施する安全点検や避難訓練を通して、安全な環境作りと防災意識を高め、危機管理や命の大切さを学ぶ機会とした ③中学生や保護者向けの説明会、HPの適時更新、清流高日より等で学校生活の様子や生徒の活躍を紹介し、校内の雰囲気や活気を外部に発信した
		主体的・対話的で深い学びのある授業の提供	①基礎基本の定着とICTの活用 ②指導と評価の一体化 ③総合的な探究の時間の充実	①タブレットを効果的に活用する ②シラバスやルーブリック評価表及び学習評価基準を作成する ③プロンプトの対話や実践を通して課題解決能力を育成する		B

		特別活動の充実と部活動の奨励	①地域への貢献 ②生徒会活動の充実 ③部活動の奨励	①各種ボランティア活動に積極的に参加する ②生徒が主体となって学校行事を運営する ③清流高だよりやHPによる活躍や戦績等を発信する	A	切り拓いていく総合力の養成に取り組んだ。 ①人権フェスティバルのオンライン参加や八代海河川・浜辺の大掃除には100名以上が参加し、ボランティア意識の向上が窺えた ②生徒会を中心に学校行事の運営や学校紹介動画の制作、テレビCMの出演等、多岐にわたり、生徒が主体となって取り組んだ ③生徒に清流高だよりを出身中学校に持参させたり、HPの更新回数を増やしたりすることで、最新の生徒の活躍を発信した
魅力ある学校づくり	学校の魅力発信	効果的な広報活動によるイメージアップ	学校紹介動画とリーフレットの作成、清流高だよりの発行、HPの即時更新により学校の様子を発信する	A	・県の施策である県立高校魅力化事業で、イノベーションハイスクールに指定され、スクールミッションの策定や情報発信等、各種PR活動に取り組んだ ・生徒がデザインした河童のマスコットキャラクター入りオリジナル付箋を制作、説明会で中学生に配布し、好評を得た。今後、本校のキャラクターとして多方面で活用する	
	進学重視型単位制の周知	メリットを周知し、他校にはない特色をPR	中学生や保護者等に分かりやすい説明を工夫するとともに、在校生の進路実現に向けたシステムを有効に活用する	A	・中学校説明会では、単位制の魅力を知りやすく漫画で説明した ・生徒には進路や興味関心に応じた科目選択ができるように、面談や集会等で周知した ・単位制の魅力を今後更に進化させるために、カリキュラムをどのように見直すことができるのか検討する	
業務改善・働き方改革	意識改革及び業務改善によるやりのある職場環境の構築	業務のスリム化及び働き方の見直しによる時間外勤務の短縮	ICTを活用した授業の改善、校務支援システムによる連絡や研修の実施及びペーパーレス化を図る	B	・タブレットの配付や安心メールの活用により職員間や生徒、保護者への配付物のペーパーレス化が加速した ・授業の板書が減ったり、宿題の採点を一部自動化したり等、授業や業務の改善、効率化を進めた	
学力向上	ICTを活用した授業の実践	教職員の授業力向上の取り組み	・授業評価システムの再構築と授業力向上を目指した公開(研究)授 ・新学習指導要領に基づいた授業評価及び授業改善を行い、「ICTを活用した	A	・6月に授業見学週間、7月に授業改善の職員研修を実施した。ICT活用推進委員会と連携し、10月と12月にICTを活用した授業実践や公開授業に全職員で取り組んだ	

			<p>業の実践 ・数学科の研究指定の取り組み例を基に授業力向上を目指した職員研修の設定と実践</p>	<p>主体的・対話的「深い学びのある授業」の具体的な取り組みを行う ・グループ研修や研究授業の実践を計画的に行う</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で授業におけるICT活用事例のWeb配信を行った ・学習評価について、職員研修及び評価方法の試行を行った ・各種の先進的な授業力向上の取り組みを通して、教師のスキルや実践力が高まった
	<p>主体的に学習に取り組む生徒の育成</p>	<p>生徒の自主的な家庭学習への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を増やすための工夫と学習方法の指導 ・予習・復習の徹底と家庭学習時間の把握と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを基に各教科で家庭学習習慣の定着のための方策を検討する ・ポートフォリオを活用し生徒自身の自己評価を元に面談週間や家庭訪問等で学習の仕方をアドバイスする 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に家庭学習時間調査を実施し、学習状況を確認した ・授業評価アンケートを年2回実施し、学習状況の確認や教師の授業改善に取り組んだ ・ICTの導入により、課題の配信や提出確認が簡単にできるようになり、生徒一人ひとりの学習状況が把握しやすくなった ・生徒、職員ともにICTの活用スキルは向上しているため、更に学習改善や授業改善に繋げていく必要がある
<p>キャリア教育（進路指導）</p>	<p>地域や社会と結びつけた進路意識の高揚</p>	<p>高等教育機関の理解を深め働くことの意義や社会の一員としてより良く生きるための職業観・勤労観の育成</p>	<p>様々な学習体験を通して、学問や職業には多くの分野があることを知り、自分の道を見つけようとする態度の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携出張講座、大学訪問、大学説明会、進路講演会、キャリアプランニング活動（インターンシップ） ・出前講座・公開講座）に主体的に参加する ・総合的な探究の時間に外部と連携する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年を中心に8大学による大学出張講座を実施した ・進路講演会は、各年次に応じた内容で実施した ・新型コロナの影響により、校外で実施するキャリアプランニング活動が中止となり、オンラインで看護講座のみ実施した。校内活動では、分野別に志望理由書の添削を継続的に実施した ・総合的な探究の時間では、消防や地元企業への聞き取り活動を行った ・各種のキャリア教育を通して進路意識の高揚や自ら将来を考える姿勢が窺えた
		<p>進路選択における意識の向上と取組</p>	<p>自ら進路に向き合い、校内外での諸活動に主体的に行動できる生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の面談や進路ガイダンス、LHRや総合的な探究の時間を活用し、進路学習を実施する ・総合的な探究の時間で興味関心を深める探究活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部主催による2回の面談週間や個別面談については年間を通して随時行った。 ・科目選択や進路相談等は、年次団、各主任主事の協力のもと多くの教員と関わる体制が取れた ・一人一台端末が導入されたことで、時間や場所を選ばずに探究活動を行う環境にはあるが、更に有効的な活用を研究していくことが今後の課題である

			実施する		
進路実現に向け、主体的に行動するための環境づくり	生徒の進路希望及び学力、学習時間、得意分野、特技等の把握と学力の向上	進路希望調査や模擬試験結果の有効活用と課外授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査及び情報共有のために進路検討会を実施する ・課外授業の実施で学力を向上させる ・模擬試験やスタディサポートを活用し学習時間や苦手分野を把握し、改善のため年次会や各教科会で分析会を実施する ・Sノートやキャリアパスポートを活用し、自己を振り返る時間を確保する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と11月に進路希望調査を実施した ・課外授業は、3年次の夕課外で1科目あたり前期13時間、後期17時間実施し、土曜課外は年間7回実施した。1、2年次は、夏季休業中に実施した ・模擬試験やスタディサポートの分析方法を変え、教科ごとに苦手分野を抽出、その対策方法を年次会で検討し、朝学習や授業において取組んだ。2年次はタブレットを活用し、ゲーム形式で単語を覚える活動を行った ・Sノートの活用は個人差があるが、学習時間や予定の管理を各自で行っている。キャリアパスポートは、記録の時間を年間計画で設定しているが、日常的な活用までには至っていない
	コミュニケーション能力の育成	小論文指導や面接指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間や朝学習を活用し小論文学習を実施する ・全職員で小論文、面接、グループディスカッション等を指導する ・口頭試問の個別指導を実施する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習で要約に取組んだり、小論文講演会を実施したりして計画的に進めた ・全職員で3年次生の総合型選抜や推薦受験の指導に取組んだ。担任と担当者間で、指導の範囲について連携が不足していた場面があった ・口頭試問については、専門性の高い教員が3年次4月から継続的に指導を行った
	進路指導力の向上	生徒や保護者の進路相談に対する確かな資料の提示や助言	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回、複数人での進路面談と記録による継続的な指導を行う ・進路検討会を実施する ・学校説明会に計画的に参加し、情報を共有する ・進路指導関連情報を年次連絡会等で発信するとともに 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と進路指導主事で連携し計画的に面談を実施することができた。生徒に応じて面談の回数を増やし、納得がいくまで練習を重ねた ・3年次については、進路検討会、出願検討会を計画的に実施することができた。2年次については、国公立大学、医療系、公務員志望等、進路先に応じた指導を行った ・生徒の進路先を把握し、説明会で得た情報を年次会や生徒に直接伝え、情報を共有することでの的確な対応を図ることが

				に、個に応じた情報を発信する		できた ・各大学のオンライン講座等を進学希望者に個別に紹介した
生徒指導	生徒の自律心と自尊心の育成	自ら判断し、行動できる生徒の育成	・生徒会及び各種委員会活動の充実 ・服装や生活態度を自ら確認する習慣の育成	・学校行事等に生徒会が中心となって企画運営に協力して取組む ・定期的に各種委員会を実施する ・生活委員会と生徒会を中心に生徒の自己点検や自主的な確認を促す	A	・生徒会執行部では、週1回ランチミーティングを開催し、文化祭やクラスマッチ等の企画や学校生活の充実のための方策を話し合った。オンライン放送を活用し、生徒会が全校生徒に文化祭の呼びかけやクラスマッチの説明等を行った ・定期的な各種委員会の開催により、ボランティア委員会での朝掃除や美化委員会での美化コンクール等、継続的な活動を行うことができた ・タブレットの使い方や情報モラルについて、HR情報委員長と生徒会長が協力し、オンラインで生徒に呼びかけを行った
		基本的な生活習慣の確立	・時間の厳守 ・挨拶の励行	・5分前行動を徹底する ・語先後礼を周知し、挨拶運動に取組む	B	・全校集会や講演会の集合は時間前に揃っているが、5分前行動、語先後礼については定期的な周知ができなかった
	明るく楽しい学校づくり	規範意識が高い生徒の育成	・生徒間交流の実施 ・部活動の充実	・生徒会企画で全学年参加の行事を実施する ・地域との情報共有に努める ・部活動を中心とした清掃活動を実施する	A	・体育大会や文化祭、クラスマッチを企画、運営し、生徒同士が交流を通して関係を深めることができた ・テレビ媒体に出演し、地域に本校生徒の良さや活躍の様子を伝えることができた ・各部の活動の中で、部室や活動場所の清掃活動を行った
	交通指導の強化	交通マナーの向上	・交通安全教育の徹底及び加害事故0件 ・交通指導の実施 ・自転車の鍵かけ推奨	・交通講話及び交通指導を年6回実施する ・交通委員による自転車の鍵かけ推奨活動を実施する	B	・交通講話は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となったが、HRを通じて交通安全の呼びかけを行った ・交通指導は、計画通りに行うことができた ・自転車の鍵かけについては、交通委員の働きかけにより、意識付けができた
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	命を大切にすることを育む取組の充実	授業、学校行事、特別活動等あらゆる場面において人権尊重の理念に立った	全教科全領域で「生徒の命を大切にすること」を育む指導を行い、自らの存在を肯定的に捉えら	A	・授業や学校行事等において、自己表現や集団表現をする機会を多く設け、自分自身を大切にすることや他者を尊重する意識を高めた ・人権教育講演会や各年次における人権教育LHR、「きずな

			取組	れるような教育活動を行う		の木」作成等、あらゆる場面において人権や個性を尊重する大切さを学んだ
		自分の夢や目標の明確化	キャリア教育の充実を図るとともに、人の役に立つことや他者の価値観を尊重する姿勢の育成	・目標設定、自分の考えの発表を通して目標達成のための具体策を考えさせる ・単位制面談や個別面談を充実させる	A	・生徒の興味や個性、進路希望等に応じて、計画的に単位制面談や個別面談が実施され、自らの将来を真剣に考える機会となった ・LHRや総合的な探究の時間におけるキャリア教育を通して、将来に対する考え方を深めることができた
		部落差別をはじめとする個別的な人権課題に対する理解と啓発	新型コロナウイルス感染症に関する人権問題事案の未然防止	新型コロナウイルス感染症に対する偏見や差別が生じないよう正しい知識や情報の発信を行う	A	・各HRでは、リーフレットの掲示と担任による講話を行い、校内にはポスターを掲示して啓発を行った。 ・各家庭には、安心メールで偏見や差別の防止に関する情報を発信した
	職員の人権意識の高揚	職員研修の充実と人権教育の視点に立った指導の実践	校内研修会の計画的な実施を通して、人権意識の向上と生徒との信頼関係の構築	・校内外の研修参加を促すとともに一人一人を大切にそれぞれの能力・適性に応じた指導、支援を行う ・言語環境の整備を行う	B	・各種研修を案内し、計画的な研修の参加ができた ・研修後の感想等を共有したりグループで協議したりすることで、多くの視点で人権問題を考える機会となった ・言語環境については、生活アンケートの結果から日常的な生徒の見守りや指導を継続する必要がある
	生徒の人権意識の高揚	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	他者を尊重する意識・意欲・態度の育成	・教材を見直し、LHR等を活用した人権教育に取り組む。 ・各部署と連携し、人権課題に日常的に触れる機会を作る ・生徒主体の啓発を行う ・生徒の活動等を保護者や地域に発信する	A	・全生徒での人権作文、1年次生による「北朝鮮による拉致問題作文コンクール」出品、2年次生による「心のきずなを深める月間」の標語出品等、年次や各教科、図書館と連携した取り組みができた ・地域の児童生徒実行委員として、生徒会から人権啓発のための活動の呼び掛けを行い、人権動画の撮影に取り組むことができた ・HPに人権教育関係の記事を掲載した ・文化祭では、生活委員会が生活標語の呼び掛けと集約を行い、発表ができた
いじめの防止等	いじめの防止	生徒の背景を把握した適切な支援・指導	生徒の背景について共通理解を図り、いじめ防止につなげる	・生徒理解研修の実施 ・保護者と連携し、生徒に必要な支援や指導を全体で	A	・4、6、11月に生徒理解研修を実施し、課題を抱えた生徒について共通理解を図った ・研修の中でスクールカウンセラーの助言も仰ぎ必要に応じて保護者と連絡をとり、こまめ

				行う		に面談等を実施し支援にあたった
		いじめの未然防止の働きかけ	豊かな情操や道徳心、社会性の育成	・朝読書の充実、芸術鑑賞会の実施、いじめに関する標語の作成に取り組む ・ストレス対処LHRを実施する	A	・定期考査後2週間の朝読書や芸術鑑賞を実施し、情操を育む取り組みができた ・2年次生全員で「心のきずなを深める月間」の標語作成に取り組んだ ・6、12月に全年次ストレス対処LHRを実施し、SSTに取り組んだ
いじめの早期発見	アンケートによるいじめの早期発見	いじめの実態を把握し、迅速かつ適切に対応	1・2年次生は3回、3年次生は2回の生徒・保護者アンケートを実施し、結果を速やかに共有する	A	・アンケート実施後の対応マニュアルを職員に周知し、注意を要する回答については当日中に共有し、迅速な対応ができる態勢を整えた ・職員、生徒には会議や校内放送を通して結果を報告し、問題点の共有を図った	
	担任との面談によるいじめの早期発見	生徒一人一人に対するきめ細やかな観察力の向上	日頃から生徒に対する声かけを積極的に行い、いじめの早期発見に努める	A	・生徒の観察と声掛けを職員に呼び掛け、面談週間を活用して生徒の心身の状態を把握した ・6、10月には「心と体の振り返りシート」をもとにサポートラインを超えた生徒への面談を行い、問題の早期発見、早期対応を行った	
	スクールカウンセラーとの連携による生徒状況の把握	専門的見地からの助言による生徒の状況把握及び問題の早期発見	スクールカウンセラーの来校日を周知するとともに、アンケート結果をもとに積極的に面談につなげる	B	・スクールカウンセラーの来校日を行事予定表や教育相談だよりで周知した ・アンケートで不安を訴えた生徒を中心に積極的にカウンセリングにつなぎ、SSWとも連携して支援にあたった ・希望者が多く、カウンセリングの時数が不足している点が課題である	
	「心のきずなを深める」ための取組	「心のきずなを深める月間」における取組みの充実	生徒が主体的にいじめ防止について考えるための取組	・保健委員会で、きずなを深めるメッセージカードを記入し、教室に掲示する ・図書委員会で、きずなを深める本を選書し、紹介する	A	・「自分と他者を大切にし、きずなを深めよう」をテーマに、フルーツ型のカードにメッセージを書き、広用紙で作った木に貼る「きずなの木」作成を保健委員中心に行った ・作品を教室に掲示したことで他者を大切に、いじめを許さない雰囲気醸成につながった ・図書委員は「友情」をテーマに選書し、図書室内にコーナーを設けて紹介を行った
地域連	総合型コミュ	学校運営協議会を通じ	本校教育への理解と協	学校運営協議会を年2回実	B	新型コロナウイルス感染防止により、2回目を書面で実施した。ご意見

携(コミュニティ・スクール等)	ニティスクールの推進	た情報共有と連携協力体制の構築	力による学校の活性化	施し、情報提供及び課題を協議する		等を通して、本校教育活動への理解と関心の高さが窺えるとともに、課題に向けた様々な提言が得られた
		熊本地震や県南豪雨を教訓とした防災体制と防災教育の取組	学校防災マニュアルの運用と研究	学校防災マニュアルを周知し、生徒引渡しと備蓄について協議する	A	・防災マニュアルを全職員に配布、災害時生徒引き渡しカードの保護者（引き取り者）記入及び確認を行った ・備蓄品は、消費期限等をデータ化し、セミナーハウスに収納した
			地域と連携した防災教育の充実	防災避難訓練の見学や防災教育LHRについて協議する	B	・コロナ禍を考慮し、地域と連携した避難訓練は実施しなかった ・避難訓練を地震と火災に分けて2回実施、避難経路を確認し迅速な行動ができた
	地域とともにある学校づくり	地域や保護者との信頼関係の構築	地域貢献や情報発信によって、理解と協力を得た生徒の育成	文化祭やマラソン大会等の学校行事を通し、育友会や地域とのより良い関係づくりに努める	B	・コロナ禍で、学校行事に保護者の参観案内ができなかったことは大変残念だったが、育友会から行事ごとに差し入れをいただき、保護者の思いが生徒に伝えられた。 ・体育祭と文化祭の1部を保護者に限定してオンライン配信をしたことで活動の様子を伝えることができた

<p>4 学校関係者評価</p> <p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、あらゆる面でICTを効果的に活用しようとする姿勢、さらに「ICT活用を目的化しないことが今後の課題」という視点は、とても評価できる。 ・生徒たちが落ち着いて、笑顔で登校している状況から、校内でも確実に成長している様子が窺える。 <p>【学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常時以上に、家庭学習の取組みが重要である。課題の配受信や学習状況の把握、指導という流れが円滑化されているので、さらに学力の向上が期待できる。 ・タブレットが1人1台となったことから、学力向上は課題である。ゲームや動画の閲覧だけでなく、様々な情報収集の道具となることを学ばせてほしい。 ・進学校として、大学進学に努めてほしい。 <p>【キャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難な環境の下、高大連携の出張講座や地元企業への聞き取り活動を実施されたことは素晴らしい。この成果を進路指導と生徒の意識向上に役立ててほしい。 ・学校で学んだことを地域や校外で活用することが、キャリア教育につながる。ボランティアや清流高だよりの発行等、このまま進めてほしい。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として求められる自律性とコンプライアンスは、早期の教育研修が大事である。難しくなく、明るく学べる環境づくりを大切に、今後さらに進めてほしい。 ・言われたり指導されたりの受け身ではなく、生徒会執行部を中心とした生徒が主体となった取り組みやメディアでのアピールが出来ていることは喜ばしいことである。 <p>【人権教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から自分以外の人のことを思いやり、考える習慣づけが生徒の成長に不可欠である。学校生

活のあらゆる場面で、それを意識した活動がなされていると思う。

- ・繰り返し、自己や人権を学ぶことが大切である。これまでと同様に、様々な機会を捉え、学びを進めてほしい。
- ・感染症に対する偏見や差別なきよう、指導をお願いしたい。

【いじめの防止】

- ・朝読書や芸術鑑賞という情操教育の視点からの取組みは、根本的な人間性を育てるために大切にしてほしい。
- ・いじめの早期発見のためにアンケートや面談が行われており、対応策が練られている。

【地域連携】

- ・地域との連携がやりにくい社会状況であるが、少なくともその視点だけは確認しながら取組みを進めていただきたい。
- ・コロナ禍で思うように進められなかったと思うが、実施の計画は今後も続けてほしい。
- ・閉鎖的になりがちだが、人と人との接点をなくすことは社会の共存を壊すことである。新しい工夫によるコミュニケーションづくりが必要である。

【その他】

- ・新しい社会環境の中で、一極集中から地方回帰の流れも一部では見られる。進学や就職でこの地域を出て行っても10年20年後に戻ってくる、または他所から応援してくれるような人材を育てていただけよう願っている。
- ・コロナ禍で生徒や教職員の皆さんには活動しづらい日々が続いているが、出来る限り対策を取りながら、安心した環境をお互いで創り出してほしい。
- ・地方の高校は、生徒数の減少により志願者倍率が低くなっている。教員数が不足している中、学級減を志願者倍率で捉えるのではなく、全県下的な視点で考えてほしい。八代清流高校は、魅力アップのために真摯に取り組んでいる。

5 総合評価

(1) 学校教育目標について

本校の教育理念である「地域の進学希望者の夢を地域で叶え、地域に貢献する人材を育成する」に基づき、社会の変化に対応し、持続可能な地域社会の創り手の育成に向け、学校全体で取り組んだ。学校評価アンケートの結果では、生徒75%、保護者80%が教育目標を理解していると回答し、本校が目指す教育について、理解していただいていることが確認できた。

また、教育実践の評価については、「入学して（させて）良かった」の問いに、生徒91%、保護者89%が当てはまると回答するとともに、全体的に高い評価をいただき、信頼を得ていると考える。

(2) 本年度の重点目標について

①自律（徳）「自律した行動がとれる生徒の育成」

今年度、生徒会役員の主体的な行事運営には目を見張るものがあった。学校紹介の動画制作やテレビ出演等には多くの生徒が関わり、意欲的な参加が数多く見られた。一方で、生徒アンケートでは、「自主的に学習する習慣」や「ボランティアへの積極的な参加」という問いに、約半数が消極的な回答で、課題が残った。

②進取（知）「主体的・対話的で深い学びのある授業の提供」

1人1台端末整備先行実践や学習評価の研究指定校事業による指導と評価の一体化について、学校全体で実践研究に取り組んだ。モデル授業の公開（2回）や研究協議会の開催により、職員のICT活用スキルは格段に向上し、評価の研究では授業の改善において、大いに有益な取組みとなった。

③錬磨（体）「特別活動の充実と部活動の奨励」

アンケートの「環境、国際理解、福祉ボランティアの学習機会が多い」の問いに、生徒62%職員45%が当てはまると回答、「ボランティア活動に積極的に参加」の問いには、生徒47%職員74%が当てはまると回答し、生徒と職員間に意識の隔たりがあった。総合的な探究の時間やキャリア教育、人権教育等に関連した重要な分野であり、今後対応の検討が必要である。

部活動については、加入率が例年80%を超え、生徒、保護者ともに約8割が積極的に参加していると回答した。HPには毎月、部活動練習計画を掲載し、部活動方針の徹底や計画に基づいて練習に取り組んだ。

(3) 自己評価の総括について

学校運営協議会やアンケート結果等から、本校の教育活動は全般的に高い評価をいただいていることが確認できた。特に、令和4年度の志願者数が前年度より22名増加したことは、これまでの教育実践や各種の取組みに対する評価であると捉えている。また、本校が目指す教育と地域のニーズが一致した結果であり、今後も地域の期待に応え、信頼される学校づくりに努めていきたいと考えている。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

本校は、令和3年度に創立10周年を迎えた。次の10年に向け、生徒募集と働き方改革が学校経営の大きな柱であると位置づけている。地域に選ばれる学校であることと、職員のワークライフバランスを整えていくことは、教育の質を向上させる意味で一体であると考えている。次年度においても地域に信頼される学校づくりに努めるとともに、新たな取組みへのチャレンジや次世代型の組織改編等を積極的に推し進め、学校教育目標の実現に向け、職員一丸となって取り組んでいく。

(2) 学力向上

ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業の実践に向け、研究授業や公開授業を前期、後期にそれぞれ実施する。また、生徒の実態に合った課題や教材の選定を行い、定着度を測りながら授業改善に努める。さらに、各教科の課題のバランスを考え、基礎力養成週間を設定し、重点的な実力養成を図る。

(3) 進路指導

志望者が多い医療系については、看護体験や志望理由書の作成及び対策を進路指導部で積極的に関わり、継続的な指導に努める。また、公務員希望者が増加傾向にあるので、3年次前期の指導体制を構築するとともに、外部人材を活用した取組みを実施する。

(4) 生徒指導

今年度、校則の見直しを検討してきた。次年度より一部改定を行い、今後も生徒を交え、実情等を踏まえながら、継続的に検討を進めていく。また、生徒会活動の充実に向けた委員会の統廃合、学校行事の内容や実施時期について検討する。さらに、交通マナーの向上のために、育友会と協力して様々な視点から生徒の安全確保に向けた取組みを行う。

(5) 人権教育・いじめ防止

学校でのあらゆる場面において人権尊重の精神で取組みを行い、安心して学校生活を送ることができる環境を整える。生徒主体の啓発を充実させることで、行動力や実践力の育成を図るとともに、言語環境を整える取組みを行う。面談の充実や職員の連携を強化し、いじめの未然防止に努め、アンケートの活用やSC・SSW等、専門家と積極的に連携をとり、スピード感のある対応を図る。

(6) 地域連携

コロナ渦により活動が制限される中、可能な範囲で地域と連携した取組みを実践する。総合的な探究の時間における個別の研究やボランティア活動に重点を置き、地域に貢献する生徒の育成を図る。また、学校行事や部活動等で小・中学生を招待するイベントの企画や、地域住民と共に考える防災教育（地震、豪雨）に取組む。